

『復興支援タスクフォース』 ～Matching HUBの取組～

令和6年能登半島地震に関する復興支援タスクフォースを立ち上げ、被災された地域企業の復興支援に取り組んでいる。具体的には、熊本地震からの復興支援を目的として活動した経験を活かして、能登地域のMatching HUBに出展経験のある企業を中心に、ニーズ調査を実施し、復興を目的とした能登地域でのMatching HUB開催に向けて活動を推進している。

熊本震災復興支援の経験

Matching HUB
Kumamoto

開催実績
2017.2.28
2018.3.2
2019.2.27

「Matching HUB」の活動は、熊本県内産業の復旧・復興にも繋がることから、熊本大学と協定を締結し協力して、熊本地震からの復旧・復興を支援するため、3年間「Matching HUB Kumamoto」を開催した。この経験を能登の震災復興に活かす。



Matching HUB

展示会形式の産学官金連携
オープンイノベーションイベント

Matching HUB
Hokuriku



- 北陸地域の活性化と人材育成を目的に2014年度から毎年開催（10回開催、参加者数1600名規模）
- ニーズとシーズのマッチングの場
- 出展者同士のマッチングが中心



【JAIST能登復興支援タスクフォースロゴ】
能登の海を表現し、想いを込めた「花紋(はなもん)」をあしらい、共に復興への協働のシンボル

※花紋:石川県における伝統文化で、留袖などの礼装に入れる家紋に草花や木の絵柄で家紋を囲み、願いや想いを込めた紋様

～意味～

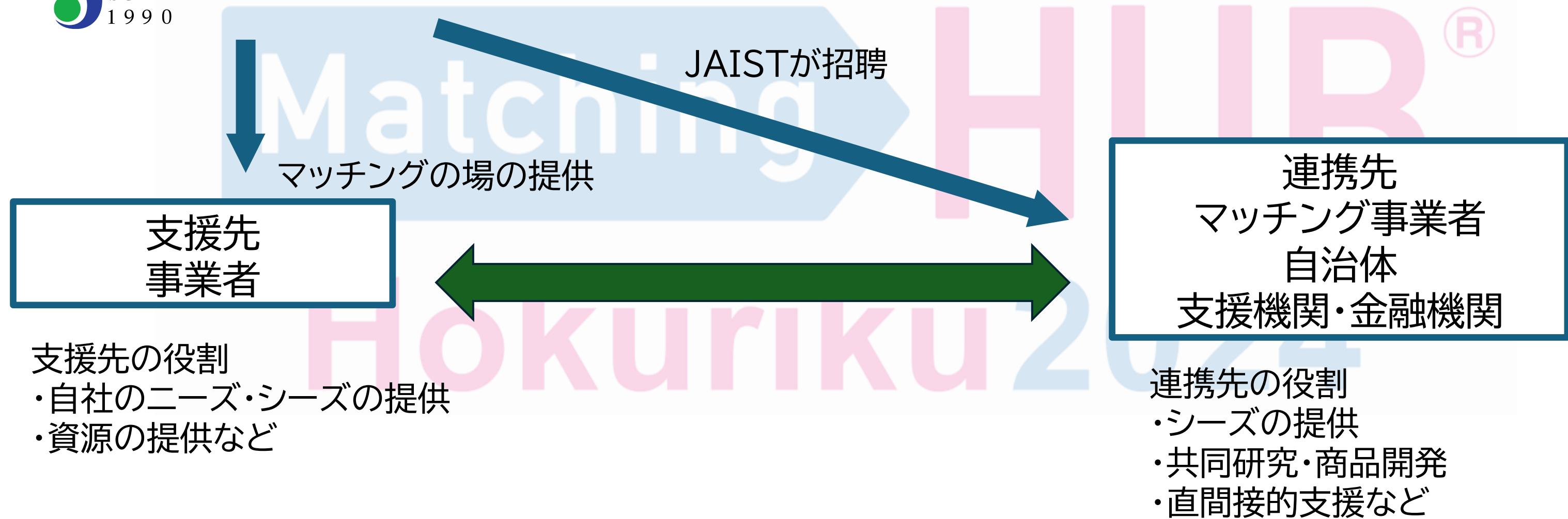
- ・ニオイイリス:架け橋となれ、希望
- ・オニユリ:災害に備える
- ・アテ(能登ヒバ):明日はより良くなろう、石川県の木

【企業のニーズ・シーズに合わせたMatching提案】



JAISTの役割として

- ・事業者間、県・市街など自治体、支援機関とのマッチングの場の提供と連携支援
- ・本事業に関する交付金・助成金の紹介と申請支援



Matching HUBの取組が能登支援につながっている事例



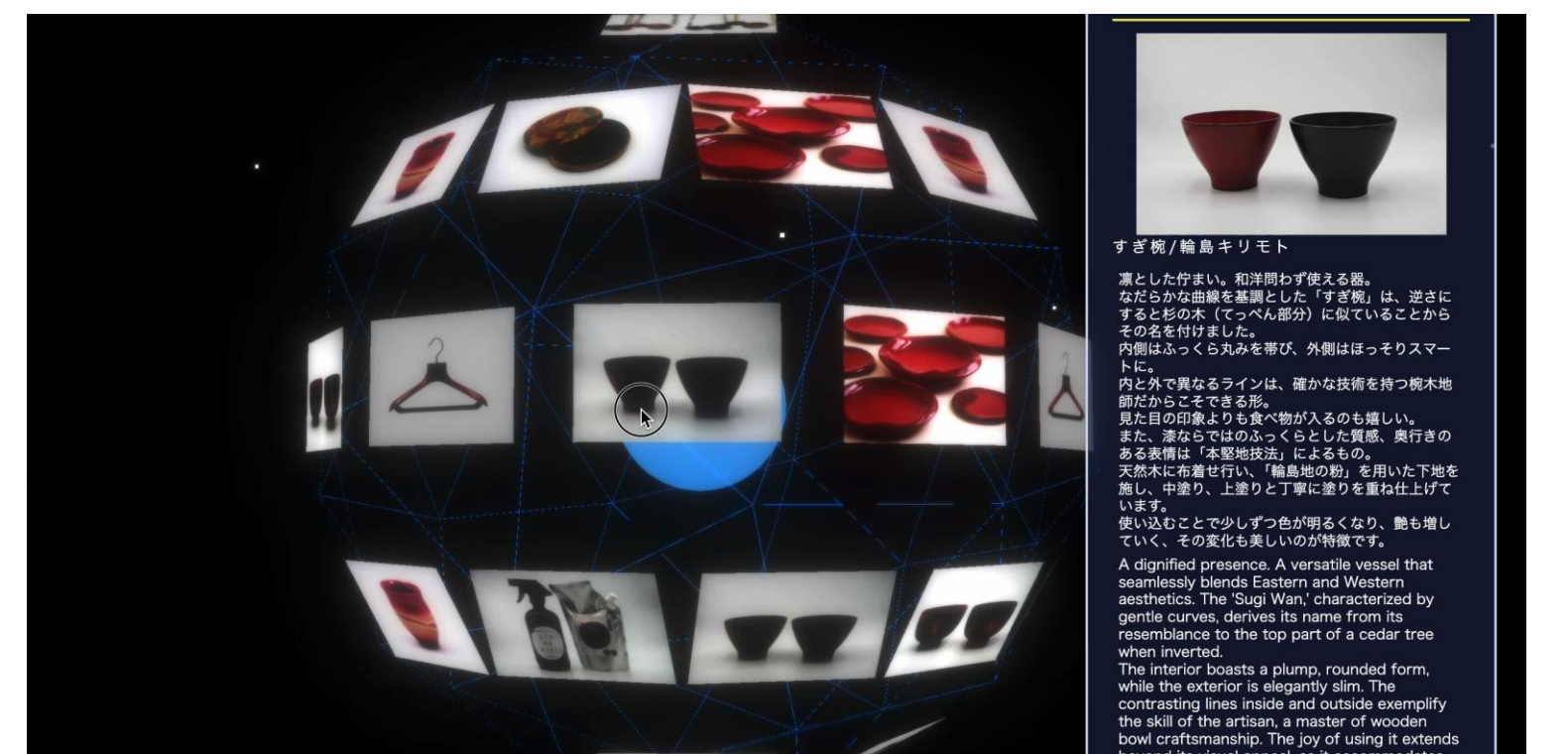
鯖江商工会議所(福井県)



鯖江の地場産業であるメガネや伝統工芸品といったモノづくりを展示・販売を可能にする新しい発信スタイルの「バーチャルモールNOTO」が、全国のモノづくり産地と世界中を繋ぐプラットフォームの役割を果たすことを目指している。
この取組について各地の商工会議所を通じて全国展開を図りたいとのニーズがあった。

2024年 1月17日～2月15日
能登半島復興支援プロジェクト
鯖江商工会議所主催

「バーチャルモールNOTO」開設



2024年 2月6日～8日 / 13日～15日
東京・青山や銀座で
リアル展示「NOTO展」と同時開催

出典
https://cg.mogadigi.jp/instruction/SCC_wajima/easyconfig_view.html?it=SCCV0501YY&ps=SCCV000YY



「輪島塗企業」とマッチング。
同社が所属する輪島商工会議所に繋がった。